

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友達となかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>○1について、教職員の温かい言葉かけ等が生活ノートや教育相談などの中で実施されたこともあり、昨年度に比べて生徒の「4」「3」の割合が4ポイント上がった。 ○2について、「4」「3」の割合が、生徒1ポイント、教職員1ポイント上がっているが、保護者は4ポイント下がっている。今後は、生徒同士のよりよい人間関係づくりに取り組み、その様子を学級通信等で保護者に伝えていく必要性を感じている。 ○3について、道徳教育の取り組みを充実したため、昨年に比べ教職員の「4」「3」の割合が1ポイント上がったと考えられる。しかし、保護者の「4」「3」の割合が5ポイント下がっている。これは、取り組みの内容等を保護者に伝えることが足りていなかったためと考えられる。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 タブレット端末活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>○昨年度に比べ、4、5、6について、保護者の「4」「3」の割合が10ポイント以上下がり、「1」の割合が増えていた。教職員では、4について、「4」「3」の割合が12ポイント、6について、3ポイント下がっている。学習指導について、学校で共通して取り組む項目を確認して実践していくとともに、「わかる」「できる」と実感させる授業づくりを行い、「学び続ける」姿を育成する必要がある。また、タブレットを活用した家庭学習の指導について取り組みを進めていく。</p>		

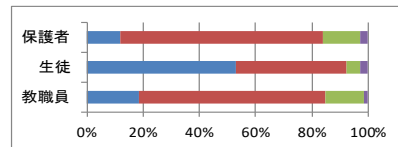
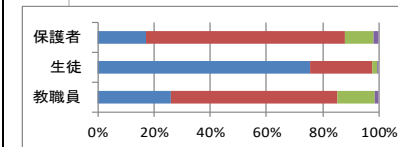
③健やかな体を育む教育の推進

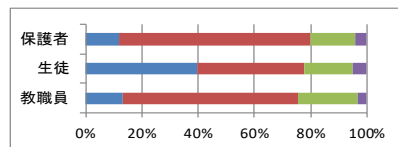
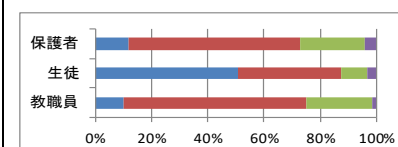
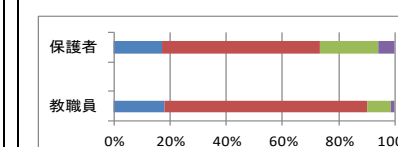
7 健康づくり		
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>		
<p>○昨年度に比べ、生徒、保護者の「4」「3」の割合が5～6ポイント下がっている。コロナ禍の下で学校生活に安心感を持てるように、学校保健委員会や保健だより等で取り組んできた。更に、安心感を実感できるように取り組んでいく必要がある。</p>		

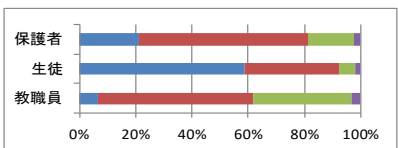
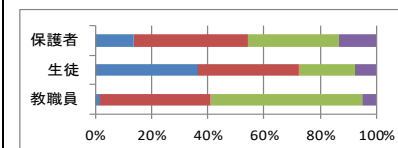
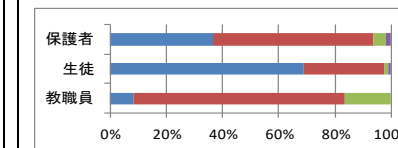
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

②特別支援教育の推進

8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>○昨年度に比べ、8、9について、生徒の「4」「3」の割合はどちらも3ポイント上がっている。しかし、保護者の「4」「3」の割合は8が3ポイント、9が7ポイント下がっている。学校では、いじめ根絶月間の取り組みや、心がやけ月間の取り組み、校長講話等を通して折に触れ学校総体として取り組んでいる。そうした取り組みや対応が保護者に十分理解されていないことが明らかになった。また、いじめに向かわない力を生徒たちに育成するために、学級活動、道徳、総合的な学習の時間、日常の指導を関連させ、長期的に取り組む必要がある。</p> <p>○10について、昨年度に比べ、保護者の「4」「3」の割合が2ポイント下がっているが、教職員では、6ポイント上がっている。校内の支援体制の構築を更に進め、全職員で特別支援教育の視点を踏まえた教育活動を推進していく。</p>		

②特別支援教育の推進		①子どもたちの身近な安全対策の充実	
11 共生社会を担う人材の育成 「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	12 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>		
○教職員、保護者の「4」「3」の割合は、85%前後であった。生徒の「4」「3」の割合は、92%であった。学校生活や授業の中で、交流及び共同学習の大切さを生徒が実感していると感じていることがわかる。今後は、教職員、保護者へ発信できる部分は発信していくようにする。	○昨年度に比べ、生徒の「4」「3」の割合は2ポイント上がっているが、教職員は5ポイント、保護者は2ポイント下がっている。地域と連携して交通マナーの育成を図りながら、事故やトラブルを未然に防ぐため危機管理マニュアルも更新していく必要がある。		

②最適な学習環境の整備		③家庭・地域社会との連携強化	
13 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	14 教育方針・目標の理解 学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	15 家庭や地域との連携協力 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	
○本校の校舎、設備は全般的に老朽化が進んでいる。定期的な安全点検を丁寧に行いながら、校舎、設備の修繕作業を徹底し、「学校を大切に」心の育成を行っていかねばならない。今後、トイレ、水道を含めた大規模改修も視野にいれる必要がある。	○14について、「4」「3」の割合が、教職員は3ポイント、生徒は2ポイント、保護者は12ポイント下がっている。 ○15について、「4」「3」の割合が、教職員は4ポイント上がっているが、保護者は8ポイント下がっている。地域と連携して生徒を指導・支援していくためには、教育方針・目標の共通理解をさらに徹底する必要がある。また、コロナ禍で、年度当初のPTA総会や授業参観、学級懇談会を開催することができず、学校の教育方針・目標の共通理解を図ることができなかった。学校・学級通信、HPや安心メール、Zoom等、様々な手段、ICT機器を駆使して保護者や地域に発信し、円滑な連携協力を図っていく必要がある。		

⑧本校の教育		
16 あいさつ 生徒は、家庭や地域、学校でよく挨拶をしていると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	17 家庭学習 生徒は、意欲的に家庭学習に取り組んでいると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>	18 きまりを守る 生徒は、学校や社会生活のきまりを守っていると思いますか。  <p>保護者 生徒 教職員</p>
○16について、「4」「3」の割合が、教職員は19ポイント、生徒は2ポイント、保護者は8ポイント下がっている。 ○17について、「4」「3」の割合が、教職員は13ポイント、生徒は6ポイント、保護者は18ポイント下がっている。教職員ともに、「4」「3」の割合が下がっている。 ○18について、昨年度と変わりはなかった。生徒会と連携し、あいさつの活性化を図っていききたい。家庭学習について、自学ノート等の取り組みを行っているが、効果が上がっているとはいえない状況である。タブレットを家庭学習にうまく活用できるよう取り組み、授業と家庭学習とのつながりを強固にし、効果上げていくようにしていく必要がある。きまりを守ることの意義を、一人一人の生徒が理解できるように、担任を中心に生徒指導部、特活部、研究部等が連携して指導・支援していく必要がある。		

来年度の具体的な取り組みについて	
○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、学校ホームページ、PTA新聞、PTA総会、家庭訪問等、あらゆる機会を通して情報発信を行う。 ○新学習指導要領全面実施を踏まえ、生徒に「わかる」「できる」という喜びを実感させ、学ぶ楽しさを味わわせるために、毎時間の授業を充実させる。そのために、教材研究とタブレット等のICT機器の効果的な活用を中心とした授業改善、評価の在り方の理解を深め、校内研修等に力を入れる。 ○熊本市学力テストのSYNシステムや全国学力学習状況調査を受け、一人一人の学力を分析し、個に応じた学習の充実ときめ細かな指導の工夫改善に努める。 ○「友達への思いやり」をはぐくむために、道徳や学級活動及び学校行事や生徒会活動を中心に、お互いのがんばっているところを受け止めることができるように取り組み、互いの良さや可能性を高め、共に成長していくいじめのない集団づくりを行う。また、生徒が肯定的、建設的、解決志向的になっていく「言葉かけ」を継続的に教育活動の中で行っていく。 ○一人一人の生徒を大切に教育を推進するために、生徒や保護者、地域のニーズを把握する努力を行う。そのために、情報の発信、伝達、共有、実践を的確に行う体制を確立する。また、生活ノートや日頃の関わりを通して、生徒や保護者の「思い」を大切に、常に寄り添いながら対応するよう心がける。さらに、生徒指導主事や特別支援コーディネーターを窓口、専門機関との連絡相談を絶やさず、的確な指導・支援が随時行えるようにする。 ○PTAや地域の諸団体と連携しながら、挨拶、交通マナーなどの規範意識を育てる指導の充実を図る。 ○安全、食育、道徳・総合、教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。 ○校舎の老朽化によって破損個所が生じたら、すぐに教育委員会へ連絡して必要な措置を講じる。また、安心・安全な環境が提供できるよう、保護者、地域の方々や教育委員会と連携・協力を進めていく。	

学校関係者評価	
○コロナ禍の下で、いろいろな制約を受けている中で、各項目とも生徒を中心に先生方や保護者がそれぞれの立場で努力されている軌跡が理解できる。 ○学校ホームページの更新が適切であり、学校の様子がよくわかるものになっている。 ○1000人以上の生徒数の学校で、アンケートのほとんどが80%前後であることは、学校の取り組みが間違っていないことを示している。さらに今の生徒のニーズに応える取り組みを行っている点が高い。 ○登下校時に、道路に広がって話をしながら、周りの状況を気にかけない姿を目にする。社会の一員として、周囲への気配り、迷惑行為等の指導を今後も継続してほしい。 ○「16 あいさつ・17 家庭学習・18 きまりを守る」の項目では、教職員の評価が低くなっている。これは、先生方の「もっとやれるはずだ」という気持ちの表れであると受けとめている。頑張してほしい。 ○中学生の時期は、保護者も子どもへのかかわり方に悩むことが多く、親子のコミュニケーション不足により、学校の様子や先生方の頑張りや伝わりにくい状況もあると考える。学校の取り組みを保護者に伝えていく努力を続けてほしい。 ○コロナ禍の下で、先生方の仕事がさらに増えており、心配している。先生方の心身の健康をサポートできる体制にも取り組んでほしい。	